

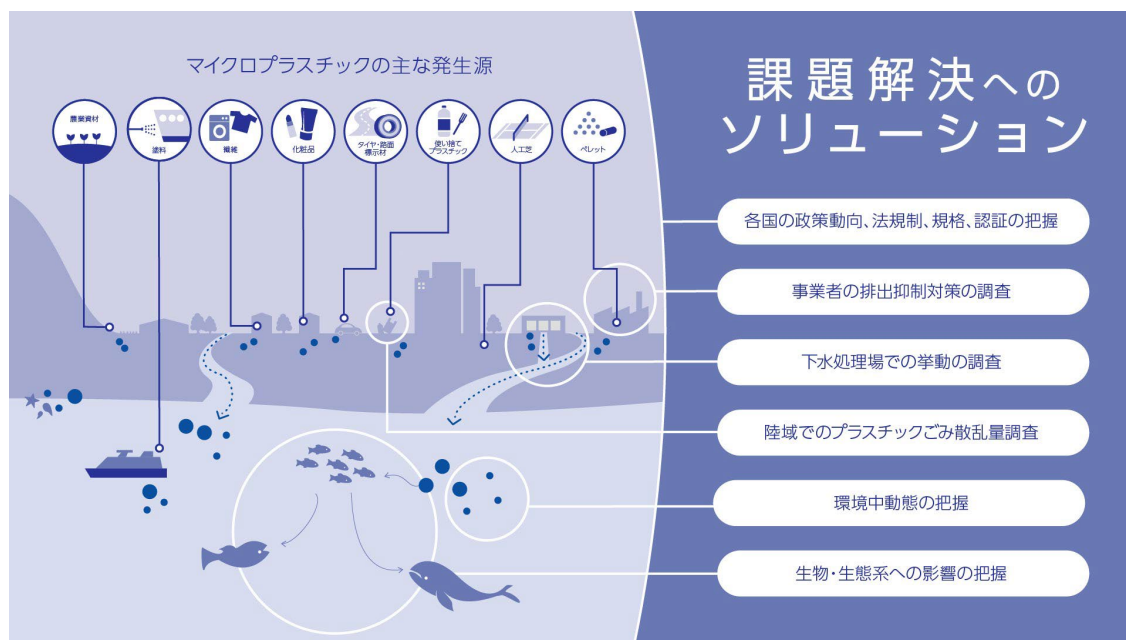
(実績) 海洋プラスチックごみ・マイクロプラスチック

概要

現在、世界全体で年間数百万トンを超えるプラスチックごみが海洋に流出していると推計されており、マイクロプラスチックを含む海洋プラスチックごみによる生物・生態系への影響や地球規模での海洋汚染が新たな環境問題として台頭しています。足元ではプラスチックに関する国際条約や欧州を中心に海洋プラスチックごみ・マイクロプラスチックの規制が進んでいます。

当社では、国内外の最新の動向を把握し、下記の調査等、官公庁の政策支援及び民間企業に向けたコンサルティングを行っています。

- ・ [マイクロプラスチックの生態影響、リスク評価](#)
- ・ [事業者のマイクロプラスチック排出抑制対策支援](#)
- ・ 海洋プラスチックごみ・マイクロプラスチックに関する政策動向、法規制調査
- ・ マイクロプラスチックのモニタリング手法の国際連携支援
- ・ プラスチック代替素材の調査 等



マイクロプラスチックの主な発生源と課題解決へのソリューション

近年の実績

- ・ 海洋プラスチックごみ・マイクロプラスチックによる生態影響に関する調査（環境省 2022～2024）
- ・ マイクロプラスチックに関する動向調査業務（環境省 2020,2022）
 - [マイクロプラスチック削減に向けたグッド・プラクティス集 2020 年度](#)
 - [衣料品から出るマイクロプラスチックの流出防止リーフレット](#)
 - [人工芝から出るマイクロプラスチックの流出防止リーフレット](#)
 - [人工芝から出るマイクロプラスチックの流出防止 施設管理者向けのお知らせ](#)
 - [人工芝から出るマイクロプラスチックの流出防止 施設管理者向けポスター](#)
- ・ マイクロプラスチックに関するデータ共有システムの整備に係るプロジェクト管理支援等及び国際連携の推進支援等業務（環境省 2022～2024）
- ・ プラスチック代替品の普及可能性調査及びプラスチックごみ散乱状況の調査（関西広域連合 2020～2022）
 - [2022 年度 調査報告書](#)
 - [2021 年度 調査報告書](#)
 - [2020 年度 調査報告書](#)
- ・ プラスチックの海洋排出量及び海洋存在量の将来予測に関する文献情報整理作業（産業技術総合研究所 2022）
- ・ 令和元年度内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業費（プラスチック資源循環の推進に向けた汎用プラスチック代替素材・再生材市場等の調査）（経済産業省 2019）
 - [2019 年度 調査報告書](#)
- ・ プラスチック代替素材の市場動向調査（民間企業 2021）
- ・ マイクロプラスチック規制動向・対策技術調査（民間企業 2020）

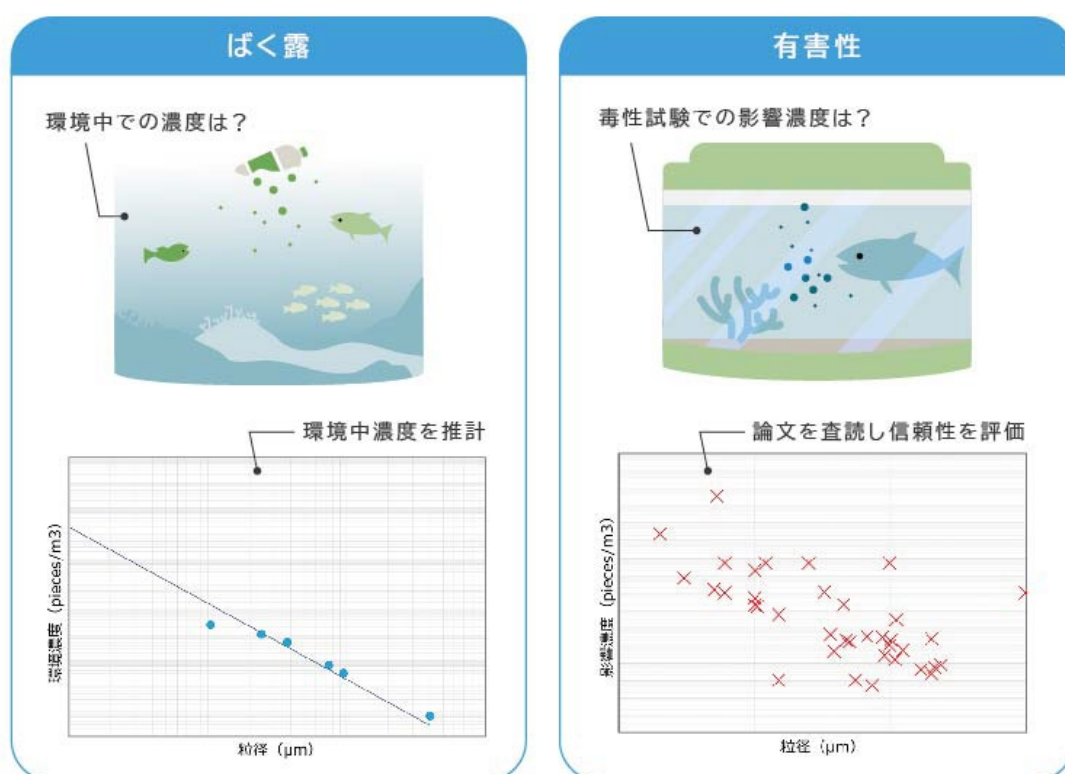
対外情報発信

- ・ 水生生物を対象としたマイクロプラスチック粒子の影響評価に向けた手法の検討（令和 7 年度水産学会春季大会シンポジウム 水圏におけるマイクロプラスチックの汚染と生物に及ぼす影響と将来 2025.3）
- ・ タイヤ摩耗粒子の側面から見たマイクロプラスチック（ユーロ 7(Euro-7)の動きと、排ガス・タイヤ・ブレーキ粉塵規制の展望，自動車 LCA 対応 技術情報協会セミナー 2025.2）
- ・ マイクロプラスチックの規制と国際動向について（プラスチック廃棄，海洋汚染防止，再生プラスチック，P F A S 問題に関する国内外規格規制の動向と対応 技術情報協会セミナー 2024.12）
- ・ プラスチック条約策定に向けた議論から企業が取り組むべき課題を先読みするーライフサイクル管理、含有化学物質管理の強化が必要かー（2023.10）
- ・ 生分解性プラスチックに対する期待と誤解（2022.4）
- ・ 繊維状マイクロプラスチックという新たな経営課題に取り組むために（2022.3）
- ・ マイクロプラスチック問題を俯瞰するー科学と政治のギャップのはざままで産業界はいかに動くかー（2019.10）
- ・ マイクロプラスチック狂想曲ー対策当初の混乱期における正しい行動のあり方ー（2019.7）

マイクロプラスチックの生態影響、リスク評価

マイクロプラスチックやマイクロプラスチックに吸着している化学物質に関しては、生物・生態系への影響が大きく懸念されていますが、定量的な評価を行うための科学的知見が十分ではありません。

当社では、公表されている数千件の文献の中から信頼性の高い文献を抽出し、マイクロプラスチックの環境中濃度や毒性に関する研究動向を把握。ばく露と有害性の観点に分けてマイクロプラスチックの生態影響、リスクについて行政・専門家と共に検討を行っています。



リスク評価におけるばく露と有害性の検討イメージ

事業者のマイクロプラスチック排出抑制対策支援

海洋プラスチックごみ・マイクロプラスチックは環境中に流出した後に回収をすることが困難であることから、発生抑制、流出防止対策を中心に取り組むことが重要ですが、効果的な解決策が確立されているとは言えません。このような状況の中、欧州委員会は2023年9月に、マイクロプラスチックを意図的に添加した製品の販売を禁止する規則を公布し、環境流出の未然防止に踏み出しました。

当社では、国内事業者や業界団体を対象に、海外の政策動向をインプットし、課題の抽出、発生抑制対策の検討、情報発信までの一連の取組を支援しています。



動向調査から課題抽出、情報発信までのイメージ